

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 経験サプリメントによる行動変容と創造的協働
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）

研究代表者

黄瀬 浩一（大阪大阪府立大学大学院工学研究科 教授）

主たる共同研究者

稲見 昌彦（東京大学先端科学技術研究センター 教授）

塚本 昌彦（神戸大学大学院工学研究科 教授）

Andreas Dengel（ドイツ人工知能研究センター 教授）

渡邊 克巳（早稲田大学理工学術院 教授）

3. 事後評価結果

○評点：

A 優れている

○総合評価コメント：

本研究は、英語や物理等の自己学習やスポーツ等において、ある人の経験を構造化した経験サプリメントに変換し、他の人が体験共有できる知的情報処理システムを構築することを目標とした。計測・生成・格納・適用技術の4処理からなる経験サプリメントを定義し、体動を伴わない英語・物理学・プログラミングの自己学習、体動を伴うスポーツ・エンタテインメントの自己学習のための経験サプリメントを実現した。センシングとアクチュエーション技術は経験の種類によって異なるために、統一的な格納（データ形式）までは至っていないが、中間評価後、認知科学と脳科学の専門家を加えることで、知覚系の脳活動から運動系の経験行動を類推するなどの行動メカニズムの解明に関する成果も出た。情報科学、認知科学、ロボティクス、ヒューマンインタフェース、人間拡張、脳科学などの海外論文、国際会議に100件以上を発表した。研究分担者の海外研究機関との共同研究も促進され、成果をベースに独でベンチャー起業の設立、JST日独仏AI研究、稲見ERATO、他CREST、さきがけなどの研究代表者が生まれるなどチーム型プロジェクトとして良い相乗効果をあげた点も優れている。